

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

10 37530 /
451,

PUBLICATION NUMBER : 2001055042
PUBLICATION DATE : 27-02-01

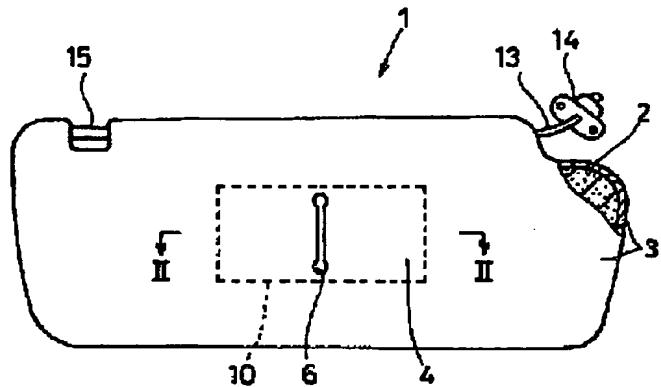
APPLICATION DATE : 17-08-99
APPLICATION NUMBER : 11230768

APPLICANT : NEOEX LAB INC;

INVENTOR : NONOYAMA TAKEKI;

INT.CL. : B60J 3/02

TITLE : VEHICLE SUNVISOR WITH HOLDER



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a vehicle sunvisor with a holder capable of stably holding stored articles.

SOLUTION: An approximately rectangular holder sheet 10 is fixed to the reverse of a skin 3 of a sunvisor body 1 throughout its outer edge. In the approximate center of a portion of the skin 3 superposed on the holder sheet 10, an approximately rectangular insertion hole 5 is opened in parallel to the short length of the holder sheet 10. A base material 2 is covered with the skin 3 to obtain a vehicle sunvisor with the holder.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-55042

(P2001-55042A)

(43)公開日 平成13年2月27日(2001.2.27)

(51)Int.Cl.⁷
B 60 J 3/02

識別記号

F I
B 60 J 3/02テマコード(参考)
N

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平11-230768

(71)出願人 00024/166

株式会社ネオックスラボ

愛知県豊田市陣中町2丁目19番地6

(22)出願日 平成11年8月17日(1999.8.17)

(72)発明者 野々山 雄樹

愛知県西加茂郡三好町福田西屋敷41の3

(74)代理人 100064344

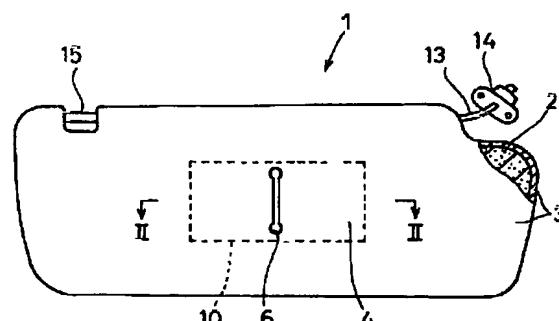
弁理士 岡田 英彦 (外3名)

(54)【発明の名称】 ホルダを備えた車両用サンバイザ

(57)【要約】

【課題】 安定して被収納物品を保持できるホルダを備える車両用サンバイザを提供することを目的とする。

【解決手段】 サンバイザ本体1の表皮3の裏面に、略長方形のホルダシート10が、その外縁の全体に亘って固定されている。表皮3のホルダシート10と重複している部分の略中央に、ホルダシート10の短手方向に対して平行に略長形状の差込口6が開設されている。表皮3で基材2を被覆することにより、本発明のホルダを備えた車両用サンバイザとなる。



(2) 開2001-55042 (P2001-55042A)

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ホルダを備えた車両用サンバイザであつて、表皮とこの表皮に重複するシートとを有しており、前記ホルダは、前記表皮と前記シートとの重複する領域において、前記表皮と前記シートとが任意の外縁形状に沿って固着されて形成された収納部と、前記収納部の外表側に設けた差込み口、とを有する、車両用サンバイザ。

【請求項2】 前記差込み口は、2方向以上からの差込みが可能に形成されている、請求項1に記載の車両用サンバイザ。

【請求項3】 前記シートは、表皮の裏面側にある、請求項1又は2に記載の車両用サンバイザ。

【請求項4】 前記表皮は、表面に毛羽を有する、請求項3に記載の車両用サンバイザ。

【請求項5】 ホルダを備えた車両用サンバイザであつて、表面に毛羽を有する合成樹脂製の表皮と、この表皮の裏面に重複するシートを有しており、前記ホルダは、前記表皮と前記シートとの重複する領域において、前記表皮と前記シートとが任意の外縁形状に沿って溶着されて形成された収納部と、この収納部の外表側に設けられ、2方向以上からの差込みが可能に形成された差込み口、とを有する、車両用サンバイザ。

【請求項6】 ホルダを備えた車両用サンバイザの製造方法で、差込み口を有する車両用サンバイザの表皮の前記差込み口を含む部分と、この部分に重複させたシートとを、任意の外縁形状に沿って固着し、前記シートを固着した表皮で、車両用サンバイザの基材を被覆する、車両用サンバイザの製造方法。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は、ホルダを備えた車両用サンバイザに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、ホルダ、特に各種カードやチケットを保持するためのカードホルダを備えた車両用のサンバイザには、帯状に成形したシートの両端をサンバイザの表皮に固着してバンド状に形成したものが知られている。しかしながら、このようなカードホルダではカード類を帯状シートと表皮との間に挟み込むだけであるため、深く差し込みすぎると反対側から落ちてくる。また、長期間の使用により帯状シートが延びて弛んでしまうとカードを保持できなくなる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】そこで、本発明では、安定して被収納物品を保持できるホルダを備える車両用サンバイザを提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するた

め、請求項1に記載の発明は、ホルダを備えた車両用サンバイザであつて、表皮とこの表皮に重複するシートとを有しており、前記ホルダは、前記表皮と前記シートとの重複する領域において、前記表皮と前記シートとが任意の外縁形状に沿って固着されて形成された収納部と、前記収納部の外表側に設けた差込み口、とを有する、車両用サンバイザを提供する。この発明によれば、シートを任意の外縁形状に沿って表皮に固着してホルダの収納部分を形成することにより、差込み以外の部分が略閉塞状に形成されるため、被収納物品を安定に保持することができる。

【0005】また、請求項2に記載の発明は、前記差込み口は、2方向以上からの差込みが可能に形成されている、請求項1に記載の車両用サンバイザを提供する。この発明によれば、2方向以上からの差込みが可能であるため、使用者の都合によって好きな方向から被収納物品を差込みに差し入れることができる。また、請求項3に記載の発明は、前記シートは、表皮の裏面側にある、請求項1又は2に記載の車両用サンバイザを提供する。この発明によれば、シートは表皮の裏側に固着されているため、表面の外観が損なわれておらず、見栄えが良い。また、請求項4に記載の発明は、前記表皮は、表面に毛羽を有する、請求項3に記載の車両用サンバイザを提供する。この発明によれば、毛羽を有する表皮の裏面にシートを固着するため、毛羽のために溶着不良を起こしたり、工程数が増えるたりすることなく、良好にシートが固着されている。このため、ホルダは被収納物品を安定に保持することができ、サンバイザの見栄えが良い。

【0006】また、請求項5に記載の発明は、ホルダを備えた車両用サンバイザであつて、表面に毛羽を有する合成樹脂製の表皮と、この表皮の裏面に重複するシートを有しており、前記ホルダは、前記表皮と前記シートとの重複する領域において、前記表皮と前記シートとが任意の外縁形状に沿って溶着されて形成された収納部と、この収納部の外表側に設けられ、2方向以上からの差込みが可能に形成された差込み口、とを有する、車両用サンバイザを提供する。この発明によれば、ホルダは被収納物品を安定に保持でき、使用者の都合によって好きな方向から被収納物品を差込みに差し込むことができる。また、シートが表皮の裏面に固着されているため、外観が良い。

【0007】また、請求項6に記載の発明は、ホルダを備えた車両用サンバイザの製造方法で、差込み口を有する車両用サンバイザの表皮の前記差込み口を含む部分と、この部分に重複させたシートとを、任意の外縁形状に沿って固着し、前記シートを固着した表皮で、車両用サンバイザの基材を被覆する、車両用サンバイザの製造方法を提供する。この発明によれば、丈夫で、被収納物品を安定に保持できるホルダを有しており、かつ、外観が良好なホルダを備えた車両用サンバイザを製造することができる。

(3) 開2001-55042 (P2001-55042A)

きる。

【0008】

【発明の実施の形態】次に本発明の実施の形態について、図面を参照しながら詳細に説明する。本形態は、カード類やチケット類を収納するカードホルダを備えた車両用サンバイザの例である。図1は、カードホルダを備えた車両用サンバイザの正面図である。車両用サンバイザ本体1は、サンバイザの形状に形成された基材2及び基材2全体を被覆する表皮3とを有しており、表皮3にはカードホルダ4が設けられている。

【0009】基材2は、車両用サンバイザの形状に形成された部材で、ブロー成形によるものや、板状芯材と骨格体とを有するものなど、従来公知の方法により形成されたもので良い。基材2には、必要に応じてその上下両面に発泡樹脂等からなるクッション体を設けることができる。

【0010】表皮3はシート状体で、表面に毛羽を有する熱可塑性合成樹脂によって形成されている。表皮3は、基材2の二面に適合する左右対称の2種類のシートで、基材2を挟み込んだ状態で、基材2の外縁で固着されており、基材2全体を被覆している。

【0011】表皮3のうち、サンバイザ本体1が車体に取付けられて車室天井面に収納されているときに車室天井面と対向する側には、カードホルダ4が設けられている。カードホルダ4は、図2に示すように、ホルダーシート10、差込口6、及び表皮3の一部であって、ホルダーシート10と重複している部分から形成されている。

【0012】ホルダーシート10は熱可塑性合成樹脂から成る略長方形のシートで、図3に示すように、表皮3の裏面の略中央に設けられている。ホルダーシート10は、その外縁の全体に亘って表皮3の裏面に熱溶着により固着されている。

【0013】固着部分で外縁が固着されたホルダーシート10と表皮3の間の空間が、カードホルダ4のカードを収納する収納部12を形成している。図2に示すように、本形態では、外縁の全体に亘って固着されているため、閉塞状の収納部12となっている。収納部12は、後述する差込口6から、左右どちら側からでもカード類を差し込んで、これを保持できる長さを有する。

【0014】図1に示すように、表皮3のホルダーシート10と重複している部分の略中央に、ホルダーシート10の短手方向に対して平行に差込口6が設けられている。差込口は、カード類を差し込むことができる大きさに切り込みや切り欠き等によって開設される。差込口は、長い略線状あるいは略長方形状に設けられると、カード類を差し込みやすく、安定に保持しやすいため、好ましい。また、本実施の形態で、差込口6の形状は、細長い略長方形で両端部が略円形に膨らんだ形状である。この形状は両端が破れにくいため、好ましい。

【0015】また、サンバイザ本体1には、車両本体と

連結される支軸13や車両本体にサンバイザ本体1を取付けるための取付け部材14、及びサンバイザ本体1を車室天井面に固定して保持するためのサポート軸15などを設けることができる。

【0016】次に、本実施の形態のホルダを備えた車両用サンバイザを製造する方法について説明する。まず、表皮3を、基材2に合わせて裁断する。表皮3は、基材2の上下両面を被覆する2種類の左右対称な形状で、基材2より大きく裁断される。

【0017】次に、表皮3のうち、サンバイザ本体1を車体に取付けたときに車室天井面に対向する側を被覆するシートの略中央に、差込口6を開設する。本実施の形態では、図1に示すような略長方形状に切り欠いたが、切り込む等、任意の方法が可能である。

【0018】その後、表皮3の裏面で、差込口6が設けられている部分にホルダーシート10を取付ける。ホルダーシート10は、カードホルダ4の大きさに略等しい略長方形状の熱可塑性合成樹脂シートであり、熱溶着等によってその外縁で表皮3に固着される。ホルダーシート10は、ホルダーシート10の短手方向が差込口6に対して略平行となり、差込口6がホルダーシート10の略中央にくる位置に固着する。

【0019】最後に、基材2を2種類の表皮3で挟み込み、基材2の外縁で2枚の表皮3を熱溶着等によって貼り合わせ、基材2全体を表皮3で被覆する。また、図1に示すように、車両本体と連結される支軸13や車両本体にサンバイザ本体1を取付けるための取付け部材14、及びサンバイザ本体1を車室天井面に固定して保持するためのサポート軸15などを設ける場合は、適宜適時取付けることができる。

【0020】本実施の形態では、カードを収納する収納部12は、その外縁形状が固着されて形成されているために、カード等を安定して保持できる。また、カードホルダ4を左右両方向から差込可能に設けたことにより、使いやすくなっている。さらに、表皮3の裏面にホルダーシート10を固着したことにより、表面側にホルダーシート10の端部が見えないため、見栄えが良い。また、長期間の使用によても剥がれにくく、カード類の保持力も維持することができる。

【0021】なお、本発明に係るホルダを備えた車両用サンバイザは、本実施の形態に限定されない。ホルダは、サンバイザのどこに設けても良い。例えば、車室天井面に対向しない面に設けても良い。また、ホルダの位置は、サンバイザの中央でなくても良く、任意の場所が可能である。また、ホルダは、サンバイザの短手方向に長く設けても良い。あるいは、サンバイザに対して斜めに設けても良い。

【0022】表皮材料は、本実施の形態に限定されない。織物、編み物、シート状成形体、皮革等を用いることができる。また、表皮の表面には、起毛、植毛、ある

(4) 開2001-55042 (P2001-55042A)

いは天然の毛羽を有していてもよい。また、表皮の材質としては、特に限定しないが、合成樹脂製あるいは、一部合成樹脂を含有して、高周波溶着や熱溶着等による溶着性を有していることが好ましい。なお、溶着性を確保するために、特に、固着される表面側にのみ溶着性の表層を有するようにしてもよい。なお、ホルダシートの材料および材質についても、上記した表皮の材料及び材質を適用することができる。

【0023】また、表皮とホルダシートの固着は、高周波溶着や熱溶着されることが好ましいが、縫着、接着、ハトメ等、各種固着手段を採用することができる。溶着の場合には、表皮とホルダシートとの互いに固着される側が溶着性を有している必要がある。表皮とホルダシートとの固着部分は、外縁形状に沿って完全に閉塞状に固着されていなくても良く、外縁が部分的に固着されても良い。差し込んだものがホルダの端部を突き抜けて表皮と基材の間に入り込まない程度に固着されれば良い。

【0024】また、ホルダシートは、表皮の表面に固着されていても良い。表面に固着する場合、ホルダシートの形状はホルダの大きさにほぼ対応して形成することが好ましい。また、表面に毛羽のある熱可塑性合成樹脂シートの場合は、表面は毛羽のために溶着し難いので、毛羽のない裏面にホルダシートを溶着することにより、良好な固着状態が得られて、十分に強固な収納部を得ることができる。

【0025】本発明のホルダは、カードホルダに限定されない。収納しようとする物品の形状に合わせた収納部形状を付与することにより、各種物品のホルダとすることができる。例えば、ポケットティッシュホルダとしても良い。この場合、図4に示すように、収納部をポケットティッシュと略等しい大きさ・形状に形成し、差込口26として、ポケットティッシュの開口部と略等しい大きさのものを中央に設けると好ましい。

【0026】また、差込口の形状は、本実施の形態に限定されない。例えば、図4に示す差込口26のように、差込口の中央部が大きく開口する、左右対称な円弧を両端で合わせた形状でも良い。一つの収納部に対して、2以上の差込口の大きさがそれぞれ異なっていてもよい。例えば、各種開口幅の差込口を備えるようにすることもできる。

【0027】また、ホルダの差込口の差込方向は、カードホルダの一端縁に対して平行でなくとも良く、斜めに開設されていても良い。カードホルダ34に対して斜めに差込口36を設けた状態を図5に示す。このような差込口36を設けることにより、1つの差込口で上下左右4方向から差し込むことが可能となり、好ましい。右からカードを差し込んだ状態を図6(a)に、上から差し込んだ状態を図6(b)に示す。

【0028】また、差込口の数は1つに限定されず、複

数設けても良い。例えば図7に示すように、カードホルダ44の両端に差込口46, 47を1つずつ設けても良い。あるいは、図8に示すように、カードホルダ64の中央寄りに差込口66, 67を2つ以上並設しても良い。収納部は、差込口66, 67それぞれの外側方向にカード類を保持できる長さを有するようにすることが好ましい。この形態では、例えば図8に示すようにカード類を右から左に差し込む場合、差込口66にテレホンカードのように短いカード類を差し、差込口67に道路通行券のように長いカード類を差し込むことができる。このとき、短いカード類は、ホルダ内に入り込んで取り出しにくくなることがなく、また、長いカード類は、より安定に収納することができるため、好ましい。

【0029】また、差込口には、破損防止のための補強手段を設けることができる。補強手段としては、差込口の周囲に補強用のシートを固着したり、熱可塑性樹脂製の場合は、差込口の端縁を熱処理したりすることができる。補強手段を設けることにより、差込口が延びたり、端部が破れたりするのを抑制できるため、好ましい。

【0030】

【発明の効果】本発明では、安定して被収納物品を保持できるホルダを備えた車両用サンバイザを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本実施の形態に係るカードホルダを備えた車両用サンバイザの正面図である。

【図2】図2は、図1のII-II線断面図である。

【図3】図3は、表皮にホルダシートを固着したときの背面図である。

【図4】図4は、ポケットティッシュホルダを備えた車両用サンバイザの正面図である。

【図5】図5は、差込口を斜めに設けた場合の模式図である。

【図6】図6(a)は、図5の差込口に右からカードを差し込んだときの模式図である。図6(b)は、図5の差込口に上からカードを差し込んだときの模式図である。

【図7】図7は、差込口をカードホルダの両端に設けたときの模式図である。

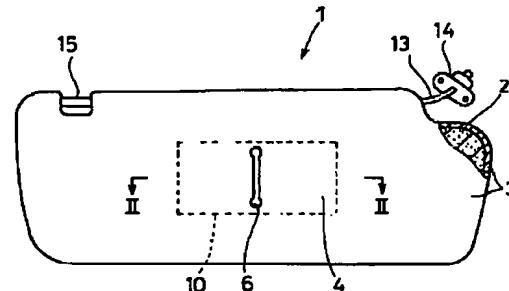
【図8】図8は、差込口をカードホルダの中央部に2つ並設したときの模式図で、カード類が差し込まれている状態を示す図である。

【符号の説明】

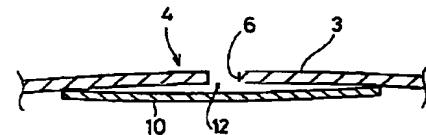
- 1 本体
- 2 基材
- 3 表皮
- 4, 34, 44, 64 カードホルダ
- 6, 26, 36, 46, 47, 66, 67 差込口
- 10 ホルダシート
- 12 収納部
- 13 支軸

(5) 開2001-55042 (P2001-55042A)

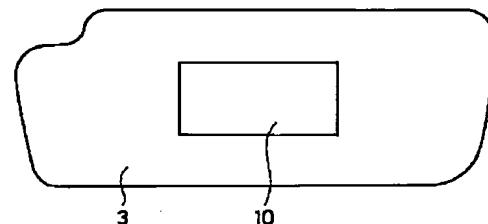
1.4 取付け部材



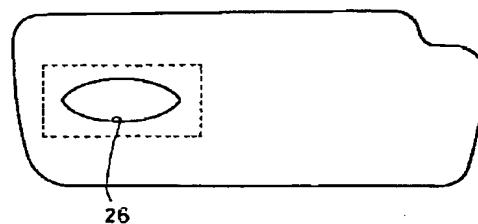
15 サポート軸



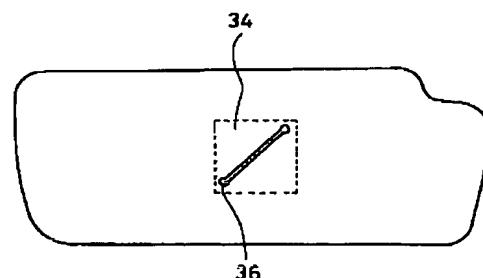
【図3】



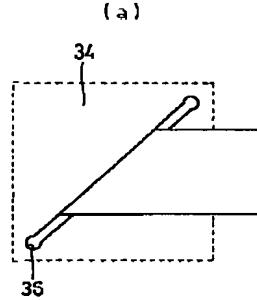
【図4】



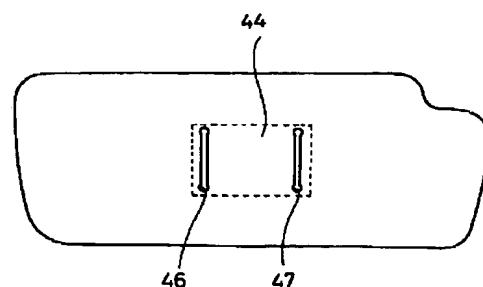
[図5]



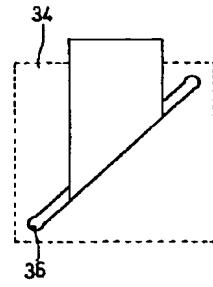
【四】



【図7】



19



(6) 開2001-55042 (P2001-55042A)

【図8】

